

モデル事業名	遊休・荒廃農地の活用による定住・二地域居住促進事業
活動団体名	特定非営利活動法人 田舎暮らし支援ネット
ホームページ	http:// http://www.npoinaka.org/
所属/ 担当者名	代表 並木芳治
連絡先	0274-64-4422 携帯 090-1122-9154
活動地域	群馬県富岡市 丹生地区、妙義地区

● 活動地域の概要

富岡市丹生地区の地域現況は、人口 2146 名、世帯数 664 戸、高齢化率 26%、面積 11 キロ平米、畑面積 338ha、水田 10ha、耕作放棄地面積 116ha、荒廃農地率 33.3%。

○アクセス：鉄道：上信電鉄上州一ノ宮駅から 4K、上信越自動車道下仁田 IC より 4K 乗合タクシー 1 日 5 便
○農業現状：農地面積に対し水田は 3% 未満であり、殆どが畑作である。戦後、中山間地へと開墾が進んだが担い手を無くすと、一気に荒廃農地となった。

○経済状況：従業員 10~50 人の企業は 5 社程、内ゴルフ場が 2 社。

○丹生湖釣り客：年 2 万人



《富岡市の位置》



《活動地域は市内北西部》



《NPO と連携する農業法人の活動》

● 活動地域の課題

上丹生地区の丹生湖一帯は、県営土地改良事業による圃場整備が進められ、平成 15 年から 37ha の優良農地が創設されました。

しかし、農地所有者の高齢化や後継者不足等により、同地域の農家は、経営規模以上の農地を管理することは困難な状態で、推定では 37ha の 2 分の 1 は、“こんにやく農家”などが借地しています。最近では、それでも遊休農地が増加し、その上、借地農業者も高齢のため、10 年後には殆どが遊休農地化するとみられています。

平成 15 年地域住民(農業者)のボランティアグループにより、管理が出来なくなった農地、2.5ha を借り受け、そば、ひまわり、小麦などを栽培する活動が行なわれ、その後、農事組合法人に発展しましたが、規模が小さいことから経営は厳しい状態です。

このような地域の遊休・荒廃農地の利活用が課題となっています。

● 活動の内容

平成 20 年度は「新たな公」の活動を切っ掛けに、NPO と農事組合を中心とした住民との交流、移住者と住民との交流が盛んとなりました。NPO は地元住民を対象とした遊休農地の利活用の提案や、住民から利活用の相談を受けるなど、遊休農地を削減する実質面で農家との交流が生まれました。

右写真には農事組合の農作業を手伝う移住者で右から 2 番目が細野さん、初年度からこのような交流が見られるようになりました。



平成 21 年度は、地域交流の成果を基に活動地域での拠点となる生活体験の取得に重点を置いています。建設そのものは国交省住宅局の「群馬県地域住宅モデル普及推進事業」の補助金によるもので新築住宅です。

11 月に完成したことで「新たな公」の活動も施設を拠点とした活動に変化しました。12 月には地域住民と移住者を対象とした「下仁田ネギ収穫、野菜収穫、地元そば粉によるそば打ち、そして交流会を開催しました。

・直近1年間

平成22年度の「新たな公」補助金の中止で活動資金不足となり、自立への最終仕上げとなる効果的な活動ができなかったのは、大きな痛手です。

それは、体験施設の初年度の運営は「新たな公」の事業の中で行い、施設の運営を軌道に乗せることが、NPO自立に繋がると考え補助金により建設したからです。現在体験者募集のPR活動もままならず、有効的な活用もできず、維持費にも苦慮しているのが実情です。

このような中、6月20日目黒区青少年委員の皆さんの「農作業体験と交流会」イベントを受け入れることができました。富岡市で民間団体が農作業等の体験を受け入れるのは初めて、富岡製糸場と連携する観光コースとして注目され、今後の展開が期待されています。また、埼玉県飯能市の市会議員5名の皆さんの行政視察もありました



《NPOとの連携を説明する富岡市職員》

埼玉県飯能市の市会議員5名の皆さんの行政視察もありました

● 活動の成果

・全体

「新たな公」の活動の中で、地域住民のボランティア団体（個人的組織？）で有った“やまびこ会”が農業法人へと成長、法人としてNPOと連携できることになった意義は大きいです。

農作業体験は農業法人、生活体験施設を中心とした移住相談や体験プログラムはNPOとすみ分けています。平成23年7月～9月は群馬県の大型観光キャンペーンが行われ、県観光局より様々な体験メニューが発表されています。NPOではいち早くロゴを取得「農」のある体験」として農作業体験を商品化、チラシを作成しました。

この様に、地域住民とNPOが連携し遊休農地の活用を起爆にした、地域活性化の動きは意義あるものと考えます。

・直近1年間の成果など

集客がままならず運営資金に悩む1年でしたが、目黒区青少年委員会の「農作業体験と交流会」と妙義地区への移住者3名の決定は成果です。

農作業体験では「下仁田ネギの苗植え」と「ジャガイモ堀」そして地域住民との交流会どれも富岡市では初めてのイベント、住民も楽しんでいました。

妙義地区では2名の方が提出していた農地転用申請も終わり、小住宅が完成、一方はログハウスのセルフに掛かっています。また、古民家を購入した方は、ごみの処理に追われています。何れも一昨年決められた方で、不景気のため新規の移住者は決まりません。



《農作業体験をサポートした地域住民》



《下仁田ネギを植える青少年委員》

● 今後の課題及び展望

・課題

当NPOは、移住者のコーディネートや農作業体験を実施し活動資金を得ているため、各事業において如何に集客するかが最大の課題です。例え、企画が優れていても、宣伝力が無いと集客は困難で、NPOの維持さえ危やうくなります。Webサイトでの周知活動には力を入れ、アクセス数20万を超えましたが、Web主体では思う程成果が上がりません。このように、集客に苦慮しているのは当NPOだけでは無いと思います。「新たな公」の活動団体が公の支援を受け、新聞、雑誌、などで周知ができれば、集客数も増えNPOもより自立に繋がると考えます。

・展望

平成23年度は、「新たな公」により連携した農業法人と改めて連携、在京の環境関係の企業の支援を受け、郵便事業(株)が実施する「平成23年度カーボンオフセット年賀寄付金配分事業」に応募しています。これは、遊休農地に実採用の桑を植え、植樹によりCO2の削減を図ると共に“実”の収穫祭や食品など加工体験、商品生産、苗の植樹祭、住民交流、記念講演などを通じてCO2削減PRを実施するものです。

桑苗は一昨年すでに農業法人が遊休農地に植え、本年の収穫は可能です。配分事業に採択された場合、桑は絹＝富岡製糸場と観光の視点からも注目され、「農」のある体験も良い結果になると、NPOや農業法人は期待しています。



《富岡製糸場を見学する農作業体験者》